

令和4年度自己評価書

42001
市立札幌新川高等学校

- 1 本年度の重点
 1. 個に応じた教育を推進し、確かな学力の定着を目指す。
 2. キャリア教育を推進し、進路実現を目指す生徒を育成する。
 3. 国際理解教育等を推進する。
 4. 心身ともに調和のとれた生徒を育成する。
- 2 本年度の経営方針
 1. 校内組織の連携強化・円滑な学校運営
 2. 魅力ある、信頼される学校づくり
 3. 進学型キャリア教育の充実
 4. 学ぶ力の育成（生徒が主体的・対話的で深い学びの視点）
 5. 学校から家庭・地域への積極的な情報発信

3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価				学校関係者評価	
		達成度	3年度	2年度	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
全体	新川高校での高校生活は、全般的に満足できるものである。	A 90.7% (三者)	A 90.7% (三者)	A 95.4% (三者)	3年目を迎えた新型コロナウイルス感染症の制限下での学校生活であったが、生徒、保護者、教職員ともにできる最大限の努力を行いながら、学びを止めないことを主眼に取り組んだ。その成果がこの満足度の結果となって表れたと総括する。	A	A
	新川高校は、教育方針(教育目標)を日々の教育に生かしている。	A 85.9% (三者)	B 83.2% (三者)	A 89.6% (三者)	次年度はスクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づく新川高校の教育の骨格を定め、生徒、保護者、教職員の三者が、この目標に沿った教育活動を展開していきたい。		
	学校教育目標を達成するために、学校の特色を踏まえた教育課程を編成している。	B 81.8% (教)	B 77.6% (教)	B 80.9% (教)	新教育課程実施の初年度であった。カリキュラムポリシーに立脚した、新たな取り組みをスタートさせた。定着と進展の2年目となるよう教育課程に基づいた教育を推進したい。		
学校関係者評価者による意見		・端末を購入し、教科書も持参するということで、荷物が重たくなり通学の不便さを感じる。学級閉鎖の際、先生方も倒れた場合、対応はどうか。 ・パソコンは早めに覚えたほうが良いと思うし、必要な技術なので、どんどん進めてほしい。高度な技術を普及していただきたい。 ・企業はIT化を進めており、グローバル化の上でも早い時期から、どんどん進めていただきたい。					
学習指導	授業は、内容が充実しており生徒は満足している。	B 83.6% (三者)	B 84.9% (三者)	A 86.0% (三者)	学級閉鎖などで授業時間が十分に確保できないことがあった。時間割変更などで対応できる部分は対応していく。	B	B
	生徒の家庭学習時間(予習・復習)は十分確保され、授業に臨むことができている。	D 47.0% (三者)	C 48.6% (三者)	C 52.5% (三者)	学級閉鎖などで家庭学習する時間はあったが、計画的に家庭学習をおこなわせるような体制になっていなかった。自発的に学習に取り組むような姿勢を日ごろから取り組ませるように指導していく。		
学校関係者評価者による意見		・宿題が端末で出されているが、動画を観てからやらなければならない場合が多く、時間が足りなくなっているようで、紙のほうが効率的な面もある。端末を使う場合、勉強しているか、できているか、親がわからない面もある。効率的にできているか親が理解できれば評価はもっと上がるのでは。					
生徒指導	全教職員が共通理解のもと生徒指導にあたっている。	C 58.2% (教)	C 67.2% (教)	B 83.0% (教)	年度初めの職員会議や随時発行される「生徒指導部だより」などを通して、教職員内でも共通理解を図りながら指導するよう取り組んでいく。	A	A
	生徒指導は、正しい礼儀や規律ある生活が送れるよう指導されている。	A 85.6% (三者)	A 88.8% (三者)	A 92.6% (三者)	様々な活動(ボランティア等)を通じて、外部の方からも高評価を頂いている。さらに、卒業後にも社会人として自立できる生徒になれるよう指導や相談活動を充実させていく。		
	自転車マナー指導・登下校指導等、交通安全指導が適切に行われている。	A 94.5% (教)	A 98.3% (教)	A 95.7% (教)	昨年度に比べて自転車事故は減少しているが、並走やイヤフォンをしながらの自転車走行などのご指摘もあり、継続的に指導を行っていく。		
学校関係者評価者による意見		・校則の見直しについて、生徒も入ってというのが現在の流れであり、共通理解への道筋かと思う。 ・時代の流れに合った校則を、学校側も考え直さないと、生徒もそう思っている。これまで、しぼりつける校則が多かったので、今一度練り直し、生徒とともに作り、生徒のための校則として、新川高校が最先端を行くような取り組みを。					
評価基準 【自己評価】 A-十分達成されている B-ほぼ達成されている C-達成されているが課題もある D-課題が多い ※注 評価は総合評価の決定方法に準じ、1. そう思う 2.どちらかといえばそう思う の合計平均が A-85%以上 B-70%以上 C-50%以上 D-50%未満 三者(教職員・保護者・生徒) 教(教職員) 保(保護者) 生(生徒) による評価である。 【学校関係者評価】 A-適切である B-ほぼ適切である C-あまり適切でない D-不適切							